2016-10-06 ナショナリズム論　第２回　講義資料

前回感想等より、抜粋とコメント

1. ジョン・ダワー『容赦なき戦争』の副題の、太平洋戦争と人種差別について扱っている点に非常に興味を持ちました。人種差別が過激化するからこそ、原爆投下によるゴミ（人間）の始末[1]や、ホロコーストにおけるガス室などの発想が生まれるのかと、身近な所（いじめや移民差別）にまで想像が膨らみました[2]。
2. 事実の解釈が歴史の展開によってかなり異なる可能性があること、また立場により曲解される危険があることを、アウシュヴィッツの例より理解しました。…ここまで理解が異なるものなのかと衝撃を受けた…多様化しているナショナリズムを見ることで、ナショナリズムのあらゆる側面[3]を知ることを期待…
3. 高校時代にヴィクトール・フランクルの『それでも人生にイエスと言う』[4]を読んで、被害者の「内面を知った」が、国との様子というものにも触れられればと思う…
4. 山根ゼミ生…これまでにも今回のテキストを使った話し合いや授業・・・しっかり丁寧に読み直して行こう…
5. 『歴史とは何か』…「歴史は時代に依存」、ユダヤ人問題の事実と歴史とに差異があることに驚きはなかったが、これを現代に置き換えると、マスコミによる報道が歴史を作っているのではないか[5]と思い、不安に感じた。
6. 個人的興味としては、WWII の日本のナショナリズムや現代のイスラム原理主義、アジア地域のナショナリズム（タイの軍事政権など？）、いまだにメディアや国家により隠

---

[1] ヒトラーは、「私は民族問題・人種問題おけるロベルト・コッホだ」といった。ユダヤ人はペスト菌と同じだ、と。ペスト菌を駆除・絶滅する人を誰が悪いと思うか？行為正当化の論理！！「国民」「民族」（ネイション）のため、と称する言説・意識（ナショナリズム）、その真偽に注意！！

[2] 非常に貴重な意見・感想だと思います。「人種差別」は、なぜ、どのような歴史的経緯で過激化したのか？　素朴な移民差別意識と過激化した移民差別意識の違いは何か、どうしてそうなるのか？つぎつぎと解明すべき問題が浮かび上がってきます。しかも、そうした人種差別は、日米間だけではなく、日本のアジア諸民族・諸国民に対する意識の変遷にも表れてきます。また、ヨーロッパでも、ドイツだけではなく、イギリス、フランス、さらにその他の国々でも発生してきます。国による違いはどのようなものか？時代による違いはどのようなものか、明確にしていくべきことが多いですね。

[3] 講義参加者（私と受講生全員）の問題関心の多様性・各人の問題追及・議論によって、多様な認識が形成されることでしょう。一参加者としての能動的な参加、議論の盛り上げを期待します。

[4] フランクルは、極限状態の収容所を生き延びた。しかし、生き延びた人は、絶滅収容所・労働収容所に連行された人々のごくわずか。到着後、6－7 割の婦女子・老人はそのままガス室へ。虱とりのシャワー室へと追い立てられ、「悩む暇もない」。クロード・ランズマン監督の映画『ショア―』、その他多くの書物が、この点を明らかにしている。

[5] まさに！！ マスコミで報道されないことの真実性･重要性。どう真実を獲得していくか？マスコミの担い手（記者・新聞テレビ等の企業）は、何を取捨選択して報道しているのか？担い手の価値観・立場により、取捨選択・充てられる光の角度など、多様で、対立的。その全体の多様性の中から、個々の問題に関する真実を解明していく力の養成が求められる。

されたものや日本では詳しく取り上げられていないもの[6]に興味…

7. イェドヴァブネ村の事件は、知りませんでした。ナチではなく、現地の村人によるユダヤ人殺害ということで、そのような社会が出来上がっていたことにショックを受けた。村人がなぜそのような行動を起こすに至ったのかを調べていきたい[7]…
8. 戦争について勉強するとき、「ナショナリズム」という言葉が必ず出てきます。そして、現在でも“国”という枠組みは私たちの生活に欠かせないものとなっていると考えます。ホロコーストはユダヤ人に対する代表的なナショナリズム的差別ですが、日本でも朝鮮人に対するナショナリズム的差別が長い間、現在に至るまで、つづいています。このナショナリズム的差別は何が発端として起きるのか[8]。「グローバル化」と言われる現在、“国”という枠組みはだんだんと変化してきていると思うのですが、その中でナショナリズムというのはどのような影響を与えるのかということについて知りたい…資料を深く検討することの重要さがよくわかりました。
9. “ナショナリズム”という言葉を聞くと、…フランス革命～ナポレオンの支配～王政復古～七月革命～二月革命という一連の流れが想起される。特にフランス革命によって初めて”“国民”意識が生まれ、他国との干渉戦争に勝利していくことで、このナショナリズムの意識が伝搬し、各国の独立運動や建国へとつながったという部分は、個人的に歴史の中で興味深い箇所です。…このナショナリズムの負の側面について、例えばナチスの支配に利用されたり、自国のナショナリズムを優先したがために他国を潰してしまうなどの点について、積極的に調べていきたい…[9]
10. 最近「ナショナリズム」という言葉をつあった議論をよく耳にするが、自分には「ナショナリズム」と言われてもあまり実感がわかない。…今回の講義を通じて、ナショナリズムの実態を把握できるように努めたい[10]。
11. 今まで学んできた歴史が、必ずしも真実だとは限らないことを実感。その歴史の“表面”しか知らないのと裏まで研究し、考察するのとでは、その事実に対する捉え方が全く変化していく。

---

[6] 「よくわからない」事件・問題がたくさんありますね。それを調べていくことに意味があります。「興味」が、探求の出発点です。

[7] ぜひ、探求してください。学術情センターで国内外のデータベースにあたり、イェドヴァブネをキーワードにして検索してみてください。

[8] 「発端」を探求すること、それから、その「発端」からどのような変化が生まれてくるかということ、国（国家、政府）と諸政党・民衆との間での違いと共通性など、考えてみるべき問題群がありますね。

[9] 絶対王政を打破する市民革命（大フランス革命）が、「国民」意識を形成するうえで、巨大な影響力を持った点は、きわめて重要です。また、イギリス、プロイセン、オーストリアなど周辺諸国家がフランス革命政権を潰してしまおうとしたこと、干渉戦争、それによってかえってフランス人の革命擁護、フランス人国民意識＝ナショナリズムが強化され先鋭化したことなど、革命・戦争とナショナリズムが深くかかわっていることがわかります。積極的な調査と報告を期待します。

[10] まさに、これが本講義の目的ですし、目指すところです。

テキスト 10－19 ページ「はじめに－ある 4 人のホロコースト生存者の生涯－」

なぜ生存しえたのか？
逃れて、どこに行ったか？
その経緯は？

4 人の経歴に実に多様な事実が盛り込まれている。

エステル・ライス（ウッチ）・・・ゲットー→国防軍製法工場→アウシュヴィッツ→ベルゲン＝ベルゼン→
　1946 年パレスチナへ移住…イスラエルで家庭を[11]。

アルフレート・ジルバ―シュタげっとールリン）・・・「水晶の夜」→アウシュヴィッツ→「死の行進」・ミッテルバウ＝ドーラ収容所→脱走
　親戚を頼りにニュージーランドに移住し、家庭を。

アレクサンドル・アロンブルネール（パリ）・・・パリからドイツ軍日占領地へ逃亡→逮捕→「自宅軟禁」→「レジスタンス活動」→リヨンで身を隠す→戦後、ボリビア・ラパスへ

エウゲニア・タバツィンスカ（クウォダヴァ、ポーランド）・・・ワルシャワ→ゲットー→ドイツ兵買収・ゲットー脱出→キリスト教徒ポーランド人の協力→偽造証明書→ドイツでの労働配置→ソ連兵による解放→アメリカ合衆国へ移住。

パレスチナ・アラブ世界におけるユダヤ人（歴史的存在）
　→19 世紀末から 20 世紀におけるパレスチナへのユダヤ人の移住
　→ナチスの迫害・人種差別から逃れるユダヤ人のナショナリズム・・・シオニズム

　ユダヤ人の移住（難民）とユダヤ人のナショナリズムが引き起こす反ユダヤ人感情・反ユダヤ主義

参考文献ジェフリー・ハーフ『ナチのプロパガンダとアラブ世界』（岩波書店、2013）

---

[11] イスラエルとパレスチナとの対立の中で、どのような態度をとったのであろうか？
　イスラエルにおける政治的諸党派の中で、個々の人々はどのようなスタンスを？
　最近死亡したシモン・ペレス大統領の流れの支持派？それとも？